

グループワークを活用したキャリア支援授業の検討

吉田 晋 福田 耕治
阿南工業高等専門学校 制御情報工学科

1. はじめに

バブル崩壊後、日本経済は長期の経済停滞に陥り、雇用情勢は厳しい状況となっている。企業の新卒採用は、即戦力になりうる優秀な人材を厳選して採用するようになってきている。一方、このような厳しい採用状況の中、学生はしっかりと自己分析し、自分が働きたい企業をよく考えて就職活動する必要がある。しかし、就職活動を始める学生の自己分析力や、将来の仕事について自ら考える力の不足により就職活動をさらに厳しくしていると考えられる。このような学生状況に対応した有効なキャリア支援授業が望まれている。阿南高专では、年度の終わり頃に就職活動を始める4年生を対象に週1回キャリア支援授業を実施している。この時間を利用して、グループワークを通して、就職活動において重要な自ら考える力と、自分の意見を伝えるコミュニケーション力を高めるキャリア支援授業を検討し、実践した。受講学生のアンケートにより効果を検証した。

2. キャリア支援授業内容

最初に自己分析をテーマにすると、最初からあきらめてしまう学生も出てくる恐れもあるため、簡単な考えるテーマから始めて、自然と自己分析、自己アピールに繋がっていくようにした。授業の進め方として(1)～(4)のフェーズを設け、後期14回(1回45分)の授業時間でそれを実施した。表1に授業で取り上げるテーマの一覧を示す。

フェーズ(1) 考える手法を体験し、短時間で考えるトレーニング。(4回)

フェーズ(2) グループディスカッションによる新しいアイデア創出を体験する。(3回)

フェーズ(3) 自己アピールを考える。(5回)

フェーズ(4) 面接対応練習。(2回)

この授業で一貫して学生に求める授業姿勢は、次の4つである。

- ① 他人の意見を批判してはいけない。
 - ② 発言者の意見に対して、必ず良いところを見出すように努力する。
 - ③ 質より量、できるだけ多くのアイデアを出す。
 - ④ 質よりスピード、時間をかけて考えすぎず、短い時間でアイデアのきっかけだけでも出す。
- これらは、グループワークをするワークシートに毎回プリントして繰り返し意識してもらうようにした。グループワークを行うとき意見を言いやすい環境を作ることは重要である。さらに今回は、意見を聞く立場の人にも、批判しないだけでなく、良いところを見いだす課題を持たせた。良いところを見つけることは難しいが、そのトレーニングが、自分の長所を見いだすときにも役立つと考えた。

表1 キャリア支援授業テーマ計画

フェーズ	回数	テーマ
フェーズ(1)	1	自己分析の重要性について考える。
	2	自己分析の手法について考える。
	3	自己分析のテーマについて考える。
	4	自己分析の進め方について考える。
フェーズ(2)	1	自己分析の結果をグループで共有し、意見を交換する。
	2	自己分析の結果をグループで共有し、意見を交換する。
	3	自己分析の結果をグループで共有し、意見を交換する。
フェーズ(3)	1	自己分析の結果をグループで共有し、意見を交換する。
	2	自己分析の結果をグループで共有し、意見を交換する。
	3	自己分析の結果をグループで共有し、意見を交換する。
	4	自己分析の結果をグループで共有し、意見を交換する。
	5	自己分析の結果をグループで共有し、意見を交換する。
フェーズ(4)	1	自己分析の結果をグループで共有し、意見を交換する。
	2	自己分析の結果をグループで共有し、意見を交換する。

3. キャリア支援授業の実施結果

グループワーク授業を始めてフェーズ(1)が終了した時、学生のコメントからブレインストーミングやマインドマップを使って考えを出し合

ってグループでまとめることに慣れてきている手応えが感じられた。

フェーズ(2)では、自分の興味ある製品や分野の同じメンバーでグループを作り、単にアイデアを多く出したものをまとめるだけでなく、ディスカッションでよりよいアイデアを創出することを求めた。

第1回～5回まで、15分程度の限られた時間の中で、グループで考える演習を学生達が経験して、第6回以降は活発な発言とスムーズに話しがまとまるグループが多かった。また、マインドマップやカードを使ったアイデア出しなど、フェーズ(1)で経験したツールをうまく使ってアイデアをまとめることができていた。

フェーズ(3)では、自己アピールを考えるテーマを設けて、自分の得意な分野や長所を再認識するとともに、自己アピールする演習を行った。始めは、自己紹介の項目だけを考えるテーマとし、次に、自分の長所を2つ以上含めた自己紹介内容を考えるテーマとした。各自グループ内で自己紹介内容を発表してもらい、聞く側のメンバーは、発表した人の紹介内容で、良かったところや、追加した方が良くと思う長所などをメモして発表者に伝えてもらった。自分一人では自分の長所が思い浮かばない学生が多く見られたが、グループ内で、他のメンバーの自己アピールを聞き、アドバイスをもらいながら、少しずつ自己アピールについて考えられるようになった学生も出てきた。

フェーズ(4)では、面接対応として、面接の心得を講義した後、グループ内で面接官の役割も演じてもらい面接官から見た印象をフィードバックしてもらった。

4. アンケート結果

受講した学生にアンケートを実施した。この授業で成長できたと思う項目を複数選択可で選んでもらった結果を図1に示す。最も多かったのは、A「与えられた課題に対して、短時間で何らかの自分の答を考えることができる」と、F「相手の話を素直に聞くことができる」だった。また、K「グループメンバーと話し合うことで、自分個人の意見に対してよりよい意見を見いだすことができる」、J「KJ法やマインドマップを使ってグ

ループでアイデアや意見をまとめていくことができる」、G「相槌や共感等により、相手に話しやすい状況を作ることができる」が次いで多かった。このことから実施したグループワークにより、考える力とコミュニケーション力が高まったと学生が実感していることが分かる。表2に、自由回答に書かれた内容の一覧を示す。受講した学生にとって、グループディスカッションを繰り返したことが良い経験になっている。

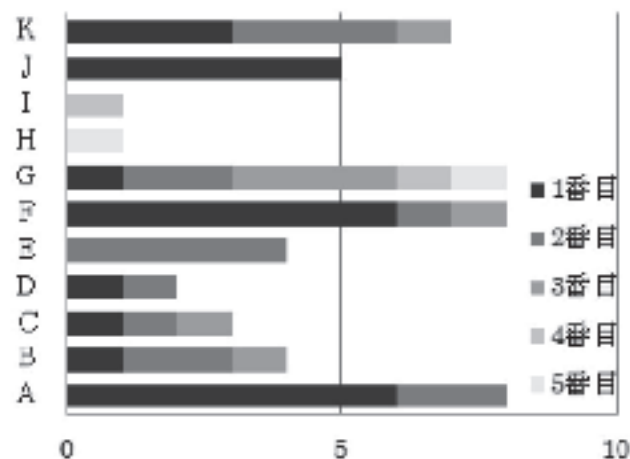


図1 成長できたと思う項目

表2 自由記述内容

グループディスカッションの進め方がある程度分かった
もっと学生が話しやすい旬な内容だったりすると、もっとアイデアがでるかもしれないと思った
グループディスカッションをすることで意見交換の仕方が分かった
グループワークの経験が積めてよかった
もっとコミュニケーション能力を伸ばさなければならないということが分かった
グループワークなので、普段あまり話をしない人とでも話す機会があったので良かったと思う
発表が得意になったと思います
問題を見直すことによって、アイデアなどよく考えられること
色々な人の色々な長所を知り取り入れることができた
ディスカッションするのはとても良い経験になりました

5. おわりに

就職活動を始める学生達を対象として、グループワークを活用したキャリア支援授業カリキュラムを検討し、授業を実施した。実際の就職活動を始めてみて、どれほどの効果があったかどうかは、検証できていないが、学生アンケートから、就職活動において重要な、自分で考える力やコミュニケーション力が少なからず高まったとの学生自身の自己評価は確認できた。